

記念誌

■ 兵庫県教育工学会創立30周年記念



記念誌

■兵庫県教育工学研究会創立30周年記念

目次

昭和38年度	1	昭和54年度	69
昭和39年度	2	昭和55年度	71
昭和40年度	2	昭和56年度	72
昭和41年度	3	昭和57年度	86
昭和42年度	9	昭和58年度	88
昭和43年度	17	昭和59年度	93
昭和44年度	23	昭和60年度	100
昭和45年度	28	昭和61年度	105
昭和46年度	34	昭和62年度	110
昭和47年度	37	昭和63年度	112
昭和48年度	40	平成元年度	115
昭和49年度	46	平成2年度	119
昭和50年度	52	平成3年度	122
昭和51年度	58	平成4年度	126
昭和52年度	62	平成5年度	133
昭和53年度	66	平成6年度	136

30周年を記念して

会長 小田桐 一 良

昭和40年（1965年）に今は亡き内岡久吉先生の提唱により、私たちの兵庫県教育工学研究会の基礎が築かれました。

シート学習器、OHP、アナライザーなどを取り入れた教育実践、プログラム学習テキストの編集等を通して教育手法の改善など、次々と新しい教育実践が行われてきました。手探りの、そして手造りの教育工学の始まりでした。

コンピュータに関しては、昭和43年に兵庫工業高等学校にオリベッティP101が導入され、本会ではその年に「コンピュータ例会」を発足させました。また、昭和51年には、普通科である西宮南高等学校にミニコンピュータが教育方法の開発を目指して導入され、加速的に、コンピュータの教育利用の実践研究が進みました。

この頃、教育工学に関する情報は少なく、研究会員の発表、講演、研究会報は貴重な情報源でした。研究会、講演会、ワークショップは会員だけでなく、広く希望者にも開放して喜ばれました。その後、小中学校にもコンピュータが導入されるようになり、会員の層も広まって来ました。現在では、校種を越えた会員の交流によって、互いに刺激しあい、「さあやるぞ」という意気込みをもって活動の輪が次々と広まりつつあります。

徳野理前会長が、「コンピュータを動かすには三つの『ウェア』が必要だ。ハードウェアとソフトウェア、もう一つはヒューマンウェアだ。」と言われました。私たちの兵庫県教育工学研究会は、このヒューマンウェアにスポットを当てて、コンピュータに心を通わせ、コンピュータを通じて学ぶ児童・生徒とともに、教える私たちも共に「わくわくドキドキ」するような学習の環境を造り上げたいと願っています。

今年は私たちの先輩方が兵庫県教育工学研究会を結成されてから30年目にあたります。日本教育工学協会の全国大会を機に、先輩の貴重な実践・活動の記録をまとめることにしました。先輩の足跡を貴重な道標とし、目前に迫っている情報化が進む21世紀に向かって、更なる一步を共に踏み出そうではありませんか。